

みんなで命と笑顔を守ろう

岡崎市立北野小学校 6年 桜井 彩心

私は、自転車に乗っていて、とてもヒヤッとしたことがあります。

5年生の時に、友達と遊ぶ約束をしていました。集合場所に自転車で向かいました。その時、自転車に乗った高校生とぶつかりそうになりました。私は、道のはしを走っていたのですが、相手は真ん中を走っていました。私は気づいて、ぶつからないようにハンドルを切りましたが、間に合いませんでした。

私は、ヘルメットをかぶっていたので転んだだけで大きなけがをせずすみしました。しかし、ヘルメットを着用しないで自転車に乗っている人もいます。ぶつかった時にヘルメットをかぶっていなかったらと考えると体が震えます。

その後、友達と遊びましたが、とてもこわい思いをしていたので、なんだか遊びに夢中になれず、その日は早く帰りました。

家に帰って事故のことを母に話すと、

「え、大丈夫だった。転んだだけで良かった」と母は、とても心配そうな顔をしました。

交通事故で大きなけがを負ったり、命を落としたりする人がいます。そのような事故も私が体験したような一瞬の出来事だと思います。

自転車の事故にあう小学生のほとんどが、本人の違反が原因で事故にあっています。大丈夫だと思って、しっかり右左右の確認をしないで道路を横断している人が多いそうです。歩行者も横断歩道ではないところを横断したり、やはり右、左、右の確認をせずに飛び出したりして事故にあうことがあると聞きます。さらに、自分は違反をしていなくても相手が原因で事故にあうこともあります。

私たちは、毎日歩いて登下校しています。登下校では、地域の方が私たちの安全を見守ってくれています。でも、私たち自身も自分の命を守っていかなければと思っています。私は通学団の班長として、毎日安全に登下校できる班のみんなにしっかり安全を確認するように伝えていきます。

さらに、全校で交通安全への意識を高めるために、北野小学校の「きたの」にちなんで合言葉を作りました。

「きたの」の「き」きちんと確認。右左右。

「きたの」の「た」立ち止まろう。横断歩道の手前では。

「きたの」の「の」の一事故で、みんなを守ろう。命と笑顔。

この合言葉を学校全体に広めて、北野小学校の全員が交通事故にあわずに、命と笑顔を守っていけるようにしたいです。

